

2024 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、連携する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」、「関西学院共通項目」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 90.5%、保護者 61.0%、教員 100%となっております。

多数の項目で得た高評価のアンケート結果に基づき、全体として高い自己評価としましたが、今年度も「教育課程・学習指導」を中心として改善への示唆が多く与えられたことを重く受けとめ、生徒・保護者・教員の声に一層真摯に応える学校でありたいとの願いを新たにしております。

本年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、上記のように、連携する学校の教職員からの意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2024 年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2025 年 3 月 15 日
関西学院中学部
部長 宮川裕隆

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切にし、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2024 年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
 - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
 - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
 - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が必要である。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
 - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
 - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
 - ⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
- 以上の7項目。

2024 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての共通理解と連携】	自己評価	A
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行っている。同時に教員もそこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。 ●学力推移調査等の外部試験の結果を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。 ●非常勤講師も含め、教科担当者会議を行い、個別生徒の学習状況について情報交換を行っている。また、隔週の教師会でも適宜、情報交換を行っている。 ●今年度より全教科に対して教員の相互見学の取組を始めた。 ●教員アンケート問 1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が 92.3%（昨年度 94.6%）と高い値を維持している。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、口頭発表、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。 ●外部試験としては学力推移調査を行い客観的な学力把握に努めている。 ●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。 ●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。 ●生徒アンケート問3「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、88.7%（昨年度 85.9%）の生徒が肯定的評価をしている。 ●同旨の質問である保護者アンケート問4「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、94.8%（昨年度 93.7%）の肯定的評価が得られている。 ●教員アンケート問2「教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。」の項目について、肯定的評価が87.2%（昨年度 83.8%）得られている。 		
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。 ●各教科で iPad など ICT 機器を用いた授業や課題の作成を行っている。 ●今年度より全教科に対して教員の相互見学の取組を始めた。 ●教員アンケート問6「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が94.9%（昨年度 94.6%）であり、生徒アンケート問5「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」に対する肯定的評価も88.9%（昨年度の 83.1%）と授業への評価は高く、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」について、今年度の肯定的評価は100%であった。昨年度も97.3%であり、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問4「教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は92.3%（昨年度 97.3%）、教員アンケート問5「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は92.3%（昨年度 91.9%）で高い水準を保っている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。 ●授業の相互見学の取組を広げて教科間の研究の横展開を図る。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	B
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●英語の分割授業、数学の一部分割授業を導入し、授業内で個別生徒に対応できる機会を増やしている。 ●授業では、各教科、発展的、応用的内容を扱うよう努めている。 ●学校行事と関連付けた授業を行っている。 ●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。 ●英語では定期的に、数学では夏期休暇中にメンター制度と呼ばれる取組を導入し、大学生による学習習慣確立のための機会を提供している。 ●生徒アンケート問 6、保護者アンケート問 5 の、補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が 91.6%（昨年度 87.3%）で、保護者の肯定的評価が 74.2%（昨年度 68.8%）である。生徒の評価と保護者の評価に乖離が見られる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●数学や英語の分割授業で、できる限り生徒の必要性に合わせた授業構築を行う。 ●生徒間の学力差が大きく、授業内容、進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、これの実現に向けた人的・財政的担保は必要である。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A
目標	生徒会などの自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの生徒が、クラブ活動など課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。 ●県大会以上に出場するなど運動部全般が活躍している。また、文化部でも、理科部が第 24 回創造アイデアロボットコンテストで全国大会に出場するなど活躍している。 ●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養につとめている。今年度は冬季のコートの色の自由化、携帯電話の学校への持込みを生徒会が教師会へ提案する形で実現した。 ●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前 1 週間はクラブ活動停止としている。 ●学習や家庭・地域での体験ができるよう、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は 18 日に制限し、冬期休暇中は停止しているのは従来通りであるが、今年度も文部科学省の部活動ガイドラインを遵守している。 ●一部のクラブ活動（2025 年 1 月現在 7 つのクラブ活動）で部活動指導員を導入し、より専門的な指導を行っている。 ●生徒アンケート問 1「学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価が 88.8%で、生徒アンケート問 2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 87.8%である。保護者アンケート問 1「生徒は楽しんで学校に通っている。」の肯定的評価が 91.6%で、保護者アンケート問 2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 91.6%である。これは正課外の活動への期待、評価も高いことを示してい 		

	<p>ると考えられる。</p> <p>●生徒アンケート問7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が83.1%と、2021年度の69.6%から大幅に増え高位安定している。</p>
今後の方策	<p>●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。</p>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的な生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的な社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●挨拶や時間厳守などといった基本的な社会マナーについては、全ての教育活動の場面において、全教員で重点的に指導している。</p> <p>●整理整頓については、担任やクラブ顧問が私物管理の在り方を指導したり、忘れ物などを安易に放置したりせず、再発防止のためにその都度指導したりすることで適宜啓発している。</p> <p>●環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、教室の掃除や廊下の汚れを取るなどして、生徒と教員が一体となり校内美化に努めている。</p> <p>●生徒アンケート問10、保護者アンケート問10、教員アンケート問12の基本的な社会マナーについての項目では、肯定的評価が生徒97.3%、保護者91.6%、教員89.7%と、いずれも高かった。教員集団が一体感を持ち、共通の認識を抱いたうえで指導を続けてきた成果が表れたものと考えられる。</p> <p>●教員アンケート問13「中学部は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。」の肯定的評価は71.8%と、昨年度(78.4%)から微減となった。コロナ禍により一旦途絶えた環境美化への取組が復活した今、今後さらに活動の視野を広げた取組が求められているものと考えている。</p>		
今後の方策	<p>●基本的な社会マナーについては、全教員が共通の認識を抱いたうえで、全ての教育活動の場面において、引き続き細やかかつ丁寧に指導していく。</p> <p>●整理整頓や環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、生徒自らが美化意識を育み、具体的な実践に移していけるように、また、今後は校内から地域へとその視野を広げていけるように指導していく。</p>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A
目標	HR(学級活動)における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●学級活動においては生徒が、学校行事においては生徒会役員や実行委員がリーダーとなり、班や委員会を組織するなどして、その企画・運営を自主的・主体的に行っている。</p> <p>●代議員会や委員会活動の活性化に重点を置き、学級活動や生徒会活動を中心に、自主自律の精神を育てている。</p> <p>●生徒アンケート問7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価は83.1%、教員アンケート問14「中学部は、学級活動や学校行事において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。」の肯定的評価は92.3%と、いずれも高かった。生徒会や代議員会が自分たちで検討し、教師会と交渉した結果、近年検討を重ねてきた携帯電話の学内持ち込みや、防寒着の着用許可などといった権利を得た。「自分たちの学校は、自分たちの手</p>		

	<p>でより良くしていく」といった思いが具体的な形となり体现された、そうした成功体験の積み重ねが、肯定的評価の要因ではないかと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケート問 11「中学部は、学級活動や学校行事を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。」の肯定的評価が 97.1%、教員アンケート問 9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。」の肯定的評価も 92.3%と高かった。生徒会役員を中心に、生徒が自主的・主体的に学校行事などに取り組んできた姿勢が評価されたのではないかと考えられる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●学級活動や学校行事において、その企画・運営を生徒がこれまで以上に自主的・主体的に行えるように指導する中で、生徒の自主自律の精神を育成していく。 ●生徒会活動や委員会活動を今後さらに活性化させ、より良い学校生活を過ごすために自分たちで何をどうしていくべきか、場合によっては何をどう変えていくべきかを生徒が自主的・主体的に判断し、行動に移していける力を身につけさせる。 ●生徒指導部と生徒会・代議員会との連携を深め、年度に縛られず、継続性を持った生徒会活動の在り方や校則の在り方などを引き続き模索していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	A
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問題への対応についての教員間での共通理解については、情報共有フォルダや教師会での報告を徹底し、指導事案の共有を随時出来るようにしている。さらに、教員用手引きを用いて、共通理解と意思統一を進めている。また、いじめ防止基本方針を改訂し、一貫したフローのもと、これまで以上にチーム学校として、生徒の問題行動に対応している。 ●生徒アンケート問 11、保護者アンケート問 12、教員アンケート問 17 の、生徒の問題行動に対して適切に対応しているかについての項目では、肯定的評価が生徒 90.6%、保護者 87.1%、教員 97.5%といずれも高かった。生徒とのコミュニケーションの機会を引き続き頻繁に設けていくと共に、保護者に対しては、問題行動に至るまでの経緯や指導・対応方針などを、迅速かつ丁寧に説明していくことが求められていると考えている。 ●教員アンケート問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の肯定的評価は 89.7%だった。チーム学校として、多くの教員で生徒の問題行動に関わるためにも、一貫したフローのもと報告・連絡・相談の機会を、これまで以上に丁寧に設けていく必要があると考えている。 ●教員アンケート問 16「教員は、生徒の問題行動の早期発見にむけて、日頃から人間関係を観察し、適宜面談を実施するなどしている。」の肯定的評価は 92.4%だった。問題行動が深刻化してから対応するのではなく、早期発見に至るように、教員が生徒と共に休み時間を過ごしたり、部活動の場面に積極的に関わったりするようにしている。また、そうした中で気になることがあれば、生徒と話し合う機会を頻繁に設けることなどを心がけている。それらの成果が表れているのではないかと考えられる。また、今年度より導入した ASSESS（学校環境適応感尺度）と B-SAFE（より良い学級づくりのスキルと取組、友人や教師、経験に関する質問紙）の、より有効的な活用の在り方が問われていると考えている。 		

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 共通理解のための教員用手引き更新にむけた検討、情報共有フォルダの活用、教師会での生徒指導部からの報告の精緻化、いじめ防止対策委員会での情報共有などを進めることにより、生徒の問題行動に対する教員間での共通理解を、チーム学校として、今まで以上に深めていく。 ● 生徒の問題行動の早期発見、また問題行動に対する適切な指導にむけて、保護者と教員の連携を深めるためにも、具体的な対応の在り方を改めて整理すると共に、担任やクラブ顧問、当該学年団と生徒指導部が、チーム学校として密に連携していくことで、迅速かつきめ細やかに指導・対応していく。 ● ASSESS や B-SAFE の有効的な活用の在り方、またスクールソーシャルワーカーの活用など、生徒支援における新たな体制の構築にむけた検討を進めていく。
-------	---

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	A
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月に新入生健康診断を、5月に定期健康診断を実施している。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は99.0%であった。 ● 中学部では体育、駆け足を実施している。心臓突然死予防のため特に心臓検診に力を入れ、毎年全学年に実施している。要再検となった生徒には「学校生活管理指導表」の提出を求め、主治医による判定の結果を教員と共有している。教員アンケート問18「中学部は、生徒に対し健康診断を定期的実施し、事後措置を適切に行っている。」の項目について、肯定的評価は97.4%であった。 ● 配慮を要する生徒の対応について、保護者、主治医と連携を取り、学校医の助言を基にその対応について協議し、教員間で情報を共有し対応している。日々の生徒の健康状態は教師会で情報を共有している。心理的課題を抱える生徒の支援について、週1回のサポートルーム会議を実施している。サポートルーム会議では、学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーが生徒の情報を共有し、支援について検討している。生徒アンケート問12、保護者アンケート問13、教員アンケート問19の「生徒の健康状態についての把握」において、生徒の86.3%、保護者の94.1%、教員の97.5%から肯定的評価が得られた。 ● 感染予防について、学校医の指導のもと日々の欠席調査より学校感染症罹患者の推移を把握し、感染症対策に取り組んでいる。保護者アンケート問14「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。」の項目について、87.1%の肯定的評価が得られた。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度より新たに就任された学校医、学校薬剤師の先生方の助言を得ながら、学校環境の安全管理、生徒たちの心身の健康管理について取り組んできた。今後も、その取組を継続していきたい。 ● 心理面で課題を抱える生徒の支援について、学校だけでは対応困難なケースが見受けられる。外部専門機関（医療・福祉）との連携の重要性を感じており、専門職の先生方の助言を得ながらチームで生徒の支援に取り組んでいきたい。 		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果	● 2024年度保健室の平均来室者数は、内科的理由が122.3件/月、外科的理由が91.1件/月、その他の理由が34.7件/月であった（2024年12月末現在）。2023年度は		

に対する評価	<p>内科的理由 113.2 件/月、外科的理由 78.5 件/月、その他の理由 5.8 件/月であり、その他の理由による来室者が著しく増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常の疾病、怪我については迅速に、保護者と連携、相談をしながら適切に対応できるよう努めている。生徒アンケート問 14、保護者アンケート問 15、教員アンケート問 21 の「怪我・急病人発生時の対応」に関する項目では、昨年度と同様に生徒の 91.3%、保護者の 94.1%、教員の 100%から肯定的評価を受けた。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年と比較し「その他の理由」による保健室への来室者が著しく増加した。不安や落ち着かない気持ちを抱えて頻回に保健室へ来室する生徒がいる。自分の思いを言葉で表現することが難しいが、生徒の気持ちに寄り添い、保護者や担任団と連携を取りながら、成長を見守れるよう支援していきたい。 ● 今後も急病、怪我の発生時には迅速、適切に対応できるよう取り組んでいきたい。

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施】	自己評価	A
目標	教育内容に関する保護者との意見交換／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 去年に引き続き、保護者面談を希望する保護者全員に 2 学期が始まる前までにすべてのクラスが保護者面談を行った。 ● 任意であるクラス懇親会は保護者の来校頻度を減らすため、多くのクラスが PTA 集会や PTA 総会に合わせて行った。 ● クラブ毎の保護者会はコロナ禍前と同じ形式に戻った。 ● 保護者アンケート問 18「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」に対して「強くそう思う」の回答が、去年の 40.5%から 38.2%に減っているが、「どちらかといえばそう思う」と合わせると 93.0%であり、保護者の期待に概ね応えられている。 		
今後の方策	● 保護者の面談の頻度は適切なレベルで行われている。保護者がその頻度に満足できるように、各学年が日頃から情報発信を続ける必要がある。		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者（PTA）との協力状況】	自己評価	A
目標	PTA と協力した学校行事の運営／PTA 幹事会等の適切な開催		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍前の頻度や形式での PTA 幹事会や PTA 集会を行うことができた。 ● 保護者の負担を減らすため、PTA 地区歓迎会を行わなかった。 ● 文化祭では全地区の PTA が店舗販売を行った。飲食販売はすべて体育館で行い、PTA グッズは校舎横に設置したテントで販売を行った。 ● 文化祭を円滑に進めるために、1 学期にそれぞれの地区の PTA に概ねのスケジュールを渡し、情報共有を頻繁に行った。 ● 文化祭当日の売店での販売をお手伝いしていただけるように、PTA 幹事以外にも地区を超えて広く保護者全体に Classi を通して呼びかけた。そのため、PTA グッズの販売のために、お手伝いいただける保護者を確保することができた。 ● 文化祭で各地区の PTA が販売する品目を増やしたため、昨年度に比べ、収益がさらに増えた。 ● 文化祭当日、体育館での販売とともに、飲食をすべて体育館内で行う、という新しい試みを行い、来場者や在校生の飲食の場を確保した。 ● 保護者アンケート問 16「中学部は、行事などの際に、適宜 PTA と協力してこれ 		

	を実施している。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 44.5%から 49.1%に増えている。「どちらかとえばそう思う」を加えると 98.9%であり、概ね保護者の期待に込えている。
今後の方策	●今年度は Classi を用いて PTA 幹事以外の保護者にも PTA 活動に参加していただくことができたが、その募集の方法に改善を図りたい。

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学部教育の五本柱の一つとして、礼拝や聖書科授業、様々な行事を通してキリスト教主義教育のプログラムを展開した。キリスト教主義教育を展開するために生徒・保護者・教員が共有できるように機会を設けている。礼拝については、学内外から講師や奨励者を招くことができた。保護者に対する「PTA 聖書を学ぶ会」は毎回、対面で開くことができ、コロナ禍前の流れを取り戻したと言える。この会は保護者が中学部のキリスト教主義教育の理念に接する機会となっている。 ● 生徒アンケート問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の項目についての肯定的評価は 92.1%（昨年度 88.0%、一昨年度 89.9%）、また問 16「キリスト教に関する理解が深まっている。」の項目についての肯定的評価は 86.1%（昨年度 83.0%、一昨年度 85.2%）といずれも昨年度、一昨年度に比べ、高い数値になっている。保護者アンケート問 19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価は 97.9%（昨年度 97.8%、一昨年度 97.4%）で過去 3 年間で最高値となっているだけでなく、数値から見ると保護者のキリスト教主義教育への理解の肯定的評価が安定して高い数値となっていることは評価できる。教員アンケート問 26「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的評価は 79.5%（昨年度 83.8%、一昨年度 86.5%）と昨年度よりは微減している。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学部は今年創立 135 周年を迎え、関西学院の建学の精神であるキリスト教の精神を受け継ぐ学校として、時代の変化に適応したキリスト教主義教育を構築し、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。生徒並びに教員に対しては毎日の礼拝を通して、体感できる形でキリスト教についての理解を深める時として継続していく。 ● 教員に対して、さまざまな研修の機会を通して、理念を共有するための研修を継続的に実施する。また、学内外のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかける。 		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心に生徒と教員が共に日常的にキリスト教精神にふれるプログラムを実施している。生徒には聖書科の授業や様々な学校行事を中心にキリスト教主義教育を展開している。 ● 今年度はコロナ禍以前の形で全校礼拝を実施することができた。讃美歌も全校生で歌唱することができた。その実感がアンケート結果にも表れているといえ 		

	<p>る（生徒アンケート問 15 と問 16）。生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝も毎月数回行い、宗教総部の J. H. C. が主催する毎週 1 回の早天礼拝も定着して行われ、多数が出席している。これはここ数年にはなかった傾向である。</p> <p>●教員アンケート問 27「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定的評価は 94.8%（昨年度 89.2%、一昨年度 91.9%）と昨年度より 5.6 ポイント高くなり、生徒間のみならず教員間においても、中学部のキリスト教主義教育における礼拝が重要な柱である認識は定着している。教員アンケート問 28「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は 74.3%（昨年度 83.7%、一昨年度 89.2%）と昨年度より 9.4 ポイント低くなっている。教員間でのこれに関するプログラムが適切でなかったという否定的評価が増えたことの原因を分析しなければならない。</p>
今後の方策	<p>●礼拝の奨励ではできる限り、様々な分野で活躍されている講師を招く。聖書科授業のカリキュラムも改革を進めながら、いのち、人権、平和、道德教育などのさまざまなテーマを取り入れ、キリスト教主義教育を推進していく。</p> <p>●人間教育の場でもある礼拝を一日の生活リズムを整える時として堅持し、休校期間中はオンラインによる礼拝の形を取り入れ、生徒・保護者・教員にとって日常化した親しみやすい礼拝を継続していく。</p> <p>●生徒たちがより自主的で主体的な運営ができるような礼拝にするため、きめ細やかな指導を行っていく。</p>

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A+
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●キャンプ・体験的学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の 1 つである。1 年生時は入学直後の新入生オリエンテーションキャンプ（2 泊 3 日）、2 年生時は岡山県の無人島で青島キャンプ（3 泊 4 日）、3 年生時は修学旅行（4 泊 5 日）と、各学年で特徴的な校外宿泊行事を設けている。</p> <p>●2 年生時の青島キャンプはコロナ禍以降、感染状況に合わせて実施形態を変えてキャンプをおこなってきた。コロナ禍以降はじめて従来の 2 年生全員参加のキャンプ実施となった 2024 年度より、昨今の気象状況を鑑み、泊数を従来の 4 泊 5 日から 3 泊 4 日に変更した。</p> <p>●1 年生時の飛鳥での校外学習、2 年生時の奈良での校外学習、3 年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修を組み入れている。</p> <p>●生徒アンケート問 24「キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。」の肯定的評価は 92.7%（昨年度 90.2%）、保護者アンケート問 27「中学部は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。」の肯定的評価は 96.4%（昨年度 90.6%）、教員アンケート問 34「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。」の肯定的評価が 97.5%（昨年度 94.6%）となり、生徒、保護者、教員すべてにおいて昨年を上回る高評価であった。コロナ禍以降はじめてすべての宿泊行事や校外学習が予定どおり実施されたことで、改めてキャンプ、体験学習の取組とその効果が評価されたと考えられる。</p>		
今後の方策	<p>●キャンプ・体験的学習の意義は、生徒・保護者・教員の誰もが認めるところである。次年度以降も社会の変化など様々な事柄の影響により実施形態の変更が</p>		

	余儀なくされるであろうが、生徒、教員共に健康で安全に行事が実施できるよう、対策をこれまで以上に検討し、キャンプ・体験学習の実施を継続していく。
--	---

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【英語教育】	自己評価	A
目標	英語教育を通しての、世界への視野の拡大／英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成／国際理解の感性育成のためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●日本人教員とネイティブ・スピーカーによるティーム・ティーチングを導入し、英語を母語とする人の特有の表現を学び、日本人がつまづきやすい点の克服を図っている。 ●1年生時から英語での作文に取り組み、3年生時は英文のレポート作成に取り組み、論理的に文章を組み立て、説得力のある英文を書く力をつけている。 ●2024年度から学習支援アプリ ELST を導入し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の習得と向上に取り組んでいる。 ●他国の文化や歴史、社会を理解し偏見を持たずにお互いを尊重する姿勢を育むことを目的に、インド親善訪問旅行、オセアニア英語研修旅行を実施している。また、英語の上達だけではなく、生徒の視野を世界に広げる機会を設けるために様々な英語研修を紹介している。 ●3年生時は SDGs について英語で学び、国際理解を深め、意見を発信できるように英語での意見交換を授業で実践している。 ●生徒アンケート問 20「英単語や英文法が身につく、英語を読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができている。」の肯定的評価が 80.8%（昨年度 74.9%）となり昨年度よりも向上した。授業で取り組んでいる英作文や今年度から導入した学習支援アプリでの学習効果を生徒が実感している結果であると考えられる。 ●保護者アンケート問 23「中学部は、英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。」の肯定的評価は 78.7%（昨年度 74.0%）で生徒同様肯定的評価が向上している。学習支援アプリ等を使った家庭学習の様子を通して保護者の学習活動に対する理解が広まった結果であると考えられる。 ●生徒アンケート問 21「海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味を持った。」の肯定的評価が 70.7%（昨年度 66.8%）であるのに対して、保護者アンケート問 24「中学部は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解育成に努めている。」の肯定的評価は 89.2%（昨年度 81.4%）、教員アンケート問 31「中学部は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は 92.3%（昨年度 91.8%）であった。SDGs 等を題材とした授業の国際理解に向けた取組と多彩な英語研修が保護者と教員から評価された結果である。一方、生徒に関しては英語研修が有志の生徒のみが参加する形であること等が肯定的評価が 70.7%にとどまった要因であると考えられる。しかし、生徒アンケート問 21 の肯定的評価は昨年度よりも向上している。コロナ禍で実施できなかったインド親善訪問旅行、オセアニア英語研修旅行の双方を再開できたこと、数年前から実践している授業での SDGs を題材とした国際理解への学習等が生徒の肯定的評価向上につながったと考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●英語の語学力だけでなく、世界への視野の拡大を目的にした英語科の授業実践と、異文化理解、国際理解を深めるための学習活動は必要不可欠である。現在実施している学習活動と国際交流プログラムを継続し、生徒の言語運用能力の向上、国際理解の感性育成に努める。 		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を利用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●設備が整った図書館を活用するだけでなく、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の10分間読書の実施を通じて、読書習慣の定着を図っている。 ●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。 ●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口となり、広く生徒に情報を伝達し、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も複数の受賞者を輩出している。 ●生徒アンケート問17「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。」の生徒の肯定的評価が76.3%（昨年度73.8%）となり、昨年度よりも高評価となった。電子書籍の利用、1年生の大学図書館見学・利用、複数の教科の図書館を活用した授業展開等が評価されたと考えられる。 ●生徒アンケート問18「図書館を活用した読書科教育、総合的な学習や探求型学習が充実している。」の肯定的評価は95.6%（昨年度90.8%）、保護者アンケート問21「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。」の肯定的評価は94.4%（昨年度91.7%）となり、昨年度と同等の高評価であった。図書館利用の取組が生徒・保護者双方から評価されている。 ●教員アンケート問29「中学部は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている。」の肯定的評価は昨年同様100%であったのに対して、質問30「中学部は、図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している。」の肯定的評価は92.3%（昨年度97.3%）で、高評価ではあるが昨年度よりも肯定的評価は減少した。教員一人一人が読書教育、図書館活用に主体的に取り組んでいる一方で、教科横断的な学習活動や探求型学習をより多く実践していく必要性を教員が感じていることが結果にあらわれたと考えられる。 		
今後の方策	●今後も社会の変化によって学習の形態や学習すべきスキルが変化していくことが考えられるが、そのような中でも、本校の伝統的な読書科教育の根幹を変えずに、生徒に対するアプローチを継続していく。		

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 【関西学院における一貫教育を含めた総合学院としての観点】	自己評価	A+
目標	スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながっていることを再認識してもらう。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒・保護者・教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート問26、保護者アンケート問29、教員アンケート問36の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」の肯定的評価は、生徒が98.0%（昨年度98.6%、一昨年度99.2%）、保護者が100%（昨年度99.7%、一昨年度99.1%）、教員が100%（昨年度100%、一昨年度100%）という結果で、保護者の数値がここ3年間で最も高い数値となった。どの数値も高いことが他校にはない中学部の特色である。スクールモットー“Mastery for Service”が生徒・保護者・教員の共通の理念として定着してい		

	<p>る。生徒アンケート問 27、保護者アンケート問 30、教員アンケート問 37 の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service” に共感している。」の肯定的評価も、生徒は 92.9% (昨年度 91.9%、一昨年度 93.2%)、保護者は 99.8% (昨年度 98.7%、一昨年度 99.0%)、教員は 100% (昨年度 100%、一昨年度 100%) と非常に高い数値を維持している。生徒アンケート問 28、保護者アンケート問 31、教員アンケート問 38 の「中学部は、『“Mastery for Service” を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」の肯定的評価は、生徒が 89.8% (昨年度 87.1%、一昨年度 87.2%)、保護者が 93.9% (昨年度 92.4%、一昨年度 92.4%)、教員が 94.9% (昨年度 86.5%、一昨年度 91.8%) とここ 3 年間で最も高い数値となっている。いずれの評価項目もすべて圧倒的に肯定的評価が高くなっているという結果は、中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを、生徒・保護者・教員が共通に理解し、それを体現していると評価できる。</p>
今後の方策	<p>●スクールモットー“Mastery for Service” の理念の共有と実践についての肯定的評価を継続していくために、その理念を教育活動で展開することを常に心がけ、礼拝、授業や行事等を行っていく。</p>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

- 昨年度より、生徒・保護者・教員すべてにおいて多数の項目に関して肯定的評価が増加した。コロナ禍から本来の教育活動に戻ったことが大きな要因として考えられる。
- 授業に取り組む教員の意識の高まりは今年度もこれまでと同様に伺える。今年度より全教科に対して教員の相互見学の取組を始めた。継続的に実施する中でその効果を検証していく。今後も教員の自己研鑽が継続し、充実する学校でありたい。引き続き教学面での環境整備が必要であると認識している。
- ホームルームや生徒会などの自治活動において概ね良好な評価となっている。以前の第三者評価で触れられた「生徒の主体的意識の向上」は大切な観点であり、今後も継続的に取り組む。整理整頓・環境美化については生徒・教員の連携を深め、実践していくことが肝要と考えている。
- 昨年度と同様、保護者との連携に関し、教員・保護者間の意思疎通や意見交換は決して不十分ではないものの、さらに改善の余地がある様子が見てとれる。時宜にかなった適切な説明など、生徒の問題行動時のみならず、保護者とのやりとりを引き続き丁寧に行っていくことが大切と考えている。
- キリスト教主義教育やスクールモットーの浸透と共感については今年度も高いレベルの評価を得たが、関西学院教育の基礎段階を担う学校の一つとして、全人教育を授業・行事・課外活動のすべてを通じて展開し、今後も教育活動に一層の磨きをかけていきたい。

2024 年度の評価をふまえて 2025 年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目の 7 項目を継続して取り上げる。

2024 年度のアンケート調査（生徒調査、保護者調査、教員調査）の結果を見ると、中学部の先生方が各評価項目に関わる活動に熱心かつ積極的に取り組まれている様子がうかがえるとともに、それらの活動が生徒や保護者から高く評価されていることがうかがえます。そのため、各評価項目は、いずれも高い水準で達成されていると考えられます。以上は総評ではありますが、次に各評価項目についてコメントさせていただきます。

教育課程・学習指導については、教員間で教育課程の全体像が共有されていることがうかがえます。また、生徒の学力・体力の客観的な把握に努められているとともに、先生方が授業改善に積極的に取り組まれている様子もうかがえます。例えば、具体的な取組のなかに授業の相互見学があげられていますが、このような取組は子どもたちの学力向上に寄与することが研究によって確認されています。これらは主に生徒の学力向上を企図した取組だと思いますが、それにとどまらず、生徒の課外活動への意欲的な参加を促すことによって生徒の自治意識を育むなど、生徒の人間形成を企図した取組も充実していると考えられます。

生徒指導については、先生方が生徒の基本的な生活習慣の確立や自主自律の精神の育成、生徒の問題行動への対応に尽力されていることがうかがえます。生徒指導については、問題行動の未然防止のための予防的な指導と、実際に問題行動が起こった時の事後的な指導という2つに大別されます。生徒の基本的な生活習慣の確立や自主自立の精神の育成は予防的な指導に該当し、問題行動への対応は事後的な指導に該当すると思われます。これら2つの指導は車の両輪のようなものであると考えられるため、今後も「チーム学校」のもと、双方の指導の充実・継続に努めていただきたいと思います。

保健管理については、生徒の怪我・急病発生時の対応が生徒や保護者から高く評価されている様子がうかがえます。生徒の安全管理は他の何よりも最優先すべきことであると考えられるため、今後もその徹底が求められると思います。

保護者との連携については、保護者の方々のご協力のもと文化祭の運営が円滑に行われていることがうかがえます。近年、共働き家庭の増加などにより、学校現場において保護者からの協力を得にくい状況にあることが指摘されています。一部の保護者の方々にご負担が偏ることのないよう、より多くの保護者の方々からのご協力を仰ぐ必要があると思います。そのためにも、中学部の取組を保護者に適宜発信し、中学部の教育活動へのご理解を深めていくことが重要であると思います。

キリスト教主義教育の実践については、教員間でキリスト教主義教育の理念が共有されているとともに、生徒と教員が日常的にキリスト教精神に触れることのできるプログラムが実施されており、礼拝が教育活動の重要な柱として位置づいていることがうかがえます。ただし、教員アンケート問 28 「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している」に対する肯定的評価が、昨年度と比べて10ポイント程度低下していることが少し懸念されます。中学部においてキリスト教主義が教育の根幹であることを踏まえると、プログラムの課題を見出し、プログラムをより望ましい形に改善する取組が必要かもしれません。

特色ある教育の実践については、キャンプ・体験学習が生徒、保護者、教員のすべてから高く評価されていることがうかがえます。その理由としては、先生方が事前に綿密な準備をされていることや、生徒が自主的に行動計画に関わっていること、などが考えられます。キャンプ・体験学習は、生徒の自治意識や自主自律の精神の育成にも大きく役立っていると思われます。また、特色ある英語教育が、生徒の英語力の向上に加え、国際理解や異文化理解にもつながっていることがうかがえます。このような英語教育は、中学部の大きな特色であるとともに、国際的に活躍する人材を育成する上でも極めて重要であると思われます。

第三者評価／学校関係者評価

2024年度学校評価では、生徒・保護者・教員のアンケートすべてにおいて、全体的に肯定的評価が高い結果となりました。これは、中学部が長い歴史と伝統を大切にしつつ、社会の変化や生徒・保護者のニーズを的確に把握し、様々な課題に前向きに取り組んできた成果といえます。

中学部は、建学の精神であるキリスト教主義教育を土台とし、「感謝・祈り・練達」という教育理念を大切にしています。この理念のもと、人の痛みに共感できる人間、他者を尊重し、将来への夢を持って社会に貢献できる人間の育成を教育目標としています。

中学部教育の土台となる「キリスト教主義教育の実践」においては、生徒・保護者ともに高い肯定的評価を得ています。全生徒・全教員がチャペルに集い、日々の礼拝を大切に守り、様々なキリスト教プログラムを通して、キリスト教の精神が確実に伝わり、理解が深まっています。中学部生や卒業生と対話する中で、中学部生活で経験する約600回のチャペル礼拝で、先生方や仲間たちから聞かされるメッセージが、生徒たちの心を豊かに育んでいることが分かります。今後も礼拝を大切に守り続けることは、中学部のみならず関西学院の歴史と伝統を継承することにもつながります。一方で、教員アンケート問26「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」では、肯定的評価が79.5%にとどまっています。これは生徒や保護者よりも、関西学院の教員として、より深い部分で理念の共有を目指していこうとする前向きな意思の結果であると考えられます。今後は教員間で建学の精神につながる理念をより深く、多様な形で共有していくことが望まれます。

「教育課程・学習指導」では、教育理念を具体化するため、今年度より教員同士の相互授業見学システムを本格的に導入したことが大変評価できます。教員間でフィードバックを交換することにより、授業の質向上と新しい指導法の導入が促進され、さらに、教員間のコミュニケーションの活性化により、学校全体のチームワークが強化され、生徒一人一人の学習状況をよりの確に把握できるようになっていくと考えられます。また、専任教員と非常勤講師による教科担当者会議を通じて、生徒の個別情報に基づいたきめ細かな学習指導を実施している点も高く評価できます。

「生徒指導」では、基本的社会マナーの定着に向けて丁寧な指導が行われています。アンケート結果が示すように、生徒たちは学級活動や生徒会活動に主体的に参加し、強い自治意識を持って学校生活を送っていることは大変評価できます。その具体例として、生徒会や代議員会での建設的な議論を行い、学校との交渉により、携帯電話の学内持ち込みや防寒着の着用許可が実現されました。この自主自律の精神は、生徒・保護者・教員から高い評価を得ています。生徒の問題行動への対応についても、すべての関係者から肯定的な評価を受けており、これは生徒との適切なコミュニケーションと保護者との深い信頼関係の構築がなされている結果であると考えられます。今後は、問題行動の予防的対応がより重要となります。今年度より導入したASSESSとB-SAFEの結果を効果的に活用することが期待されます。

「保健管理」では、配慮を要する生徒、特に心理的課題を抱える生徒への支援のため、週1回のサポートルーム会議を実施しています。学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーが一堂に会し、生徒の情報共有と支援方針の検討を行っています。このシステムにより、各専門家が生徒の状況を総合的に理解し、一貫性のある適切な支援を継続的に提供され、支援アプローチが統一されることで、生徒は安心して支援を受けることができている。また、定期的な会議により、生徒の問題や課題を早期に発見し迅速に対応することで、心理的課題の深刻化を防ぐことができます。アンケートにおける高い肯定的評価は、現在のシステムが効果的に機能していることを示しており、大変評価できます。

「保護者との連携」においては、面談や懇談会など、きめ細やかな対応を実施しており、保護者からの評価も高いです。一方で教員アンケート問23「中学部は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている」では、肯定的評価が71.8%にとどまっています。これは、教員が保護者とより一層の意見交換を行い、教育内容と教育環境の更なる向上を目指したいという意欲の表れと捉えることができます。また、保護者アンケート問6「中学部は、関西学院高等部に関する情報を適切に提供している」では、肯定的評価が67.2%という結果となっています。多くの生徒が高等部への進学を希望し、保護者からも情報提供への要望が高いと思われます。高等部に関する説明会の開催時期、回数、

内容を見直すことで、保護者と生徒がより安心して進路について検討できる機会を提供することが望まれます。

「特色ある教育の実践」においては、中学部伝統の新入生オリエンテーションキャンプをはじめ、青島キャンプや長崎方面への修学旅行など、保護者アンケートにおいても96.4%が肯定的評価を示しています。国際交流プログラムも充実しており、英語学習だけでなく、多様性・異文化理解の貴重な機会として機能していることが大変評価できます。インド親善訪問旅行、オセアニア英語研修旅行、さらにアメリカ本土、グアム、韓国などへの研修旅行を通して、生徒たちは国際感覚を身につけ、“Mastery for Service”を体現する世界市民としての第一歩を踏み出しています。今後も、より多くの生徒がこれらのプログラムに参加できる体制を整備していくことが期待されます。

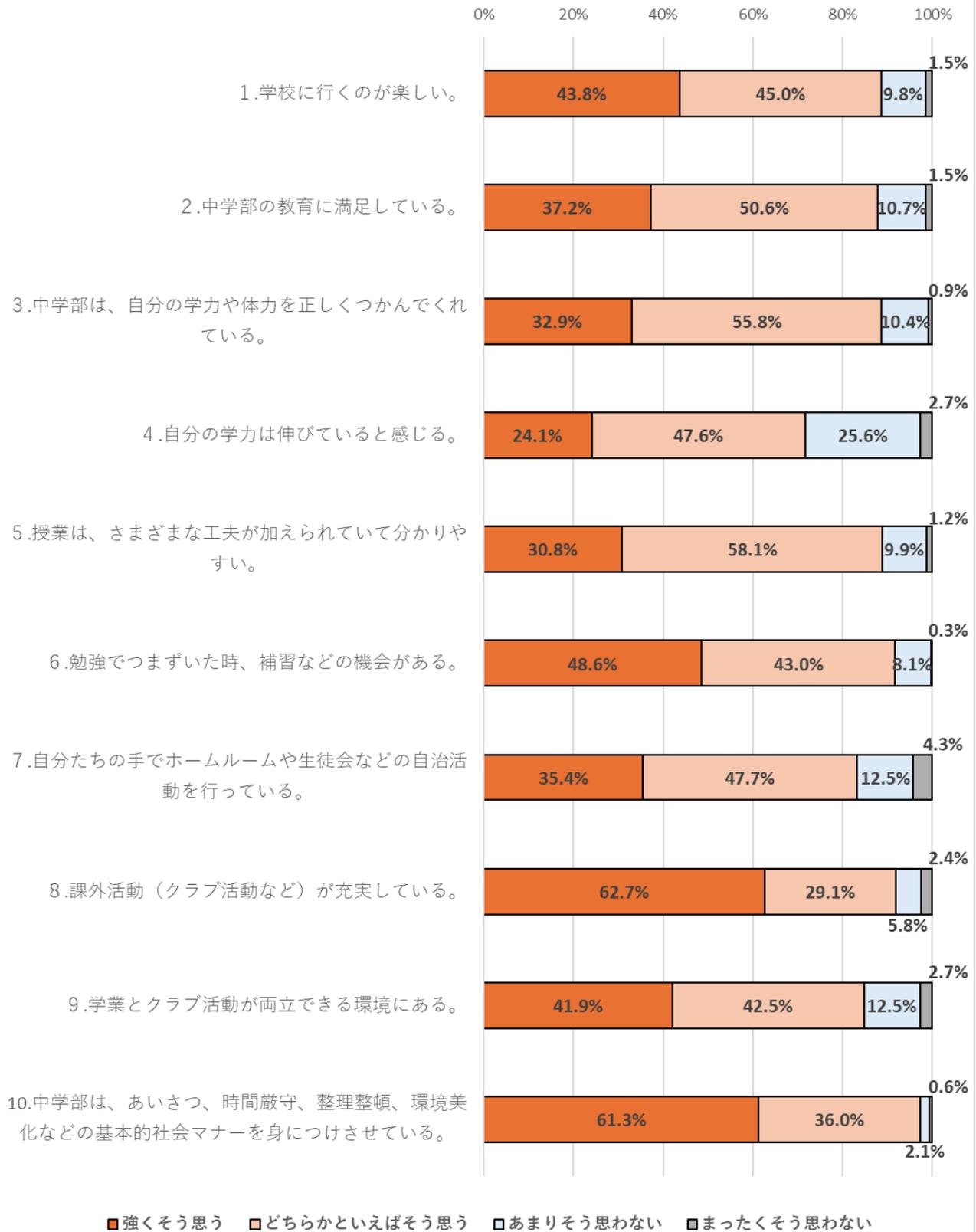
英語教育においては、ネイティブスピーカーによる授業に加え、学習支援アプリの導入や1年生からの英作文指導など、生徒が意欲的に取り組める工夫がなされていることが大変評価できます。生徒アンケート問20「英単語や英文法が身につく、英語を読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができていく」という生徒アンケートでは80.8%の肯定的評価を得ており、昨年度より約6ポイント上昇したことから、教員の指導の工夫が効果を上げていることがわかります。

読書・図書館教育においては、生徒アンケート問18「図書館を活用した読書科教育、総合的な学習や探究型学習が充実している」で95.6%という極めて高い肯定的評価を得ています。また保護者アンケート問21「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している」でも94.4%と高評価であり、充実した読書教育プログラムが展開されていることが大変評価できます。今後も受動的な学習ではなく、生徒たちの知的好奇心を刺激し、より深い思考へと導くため、充実した読書・図書館教育の継続が望まれます。

関西学院の総合学院としての観点から中学部の歩みを見ると、生徒・保護者・教員のアンケートを通じて、建学の精神とスクールモットー“Mastery for Service”が確かな共通理念として根付いていることが確認できます。これらの理念は中学部の存在意義そのものであり、その実現に向けて、現在の取組を誠実に継続していくことが期待されます。

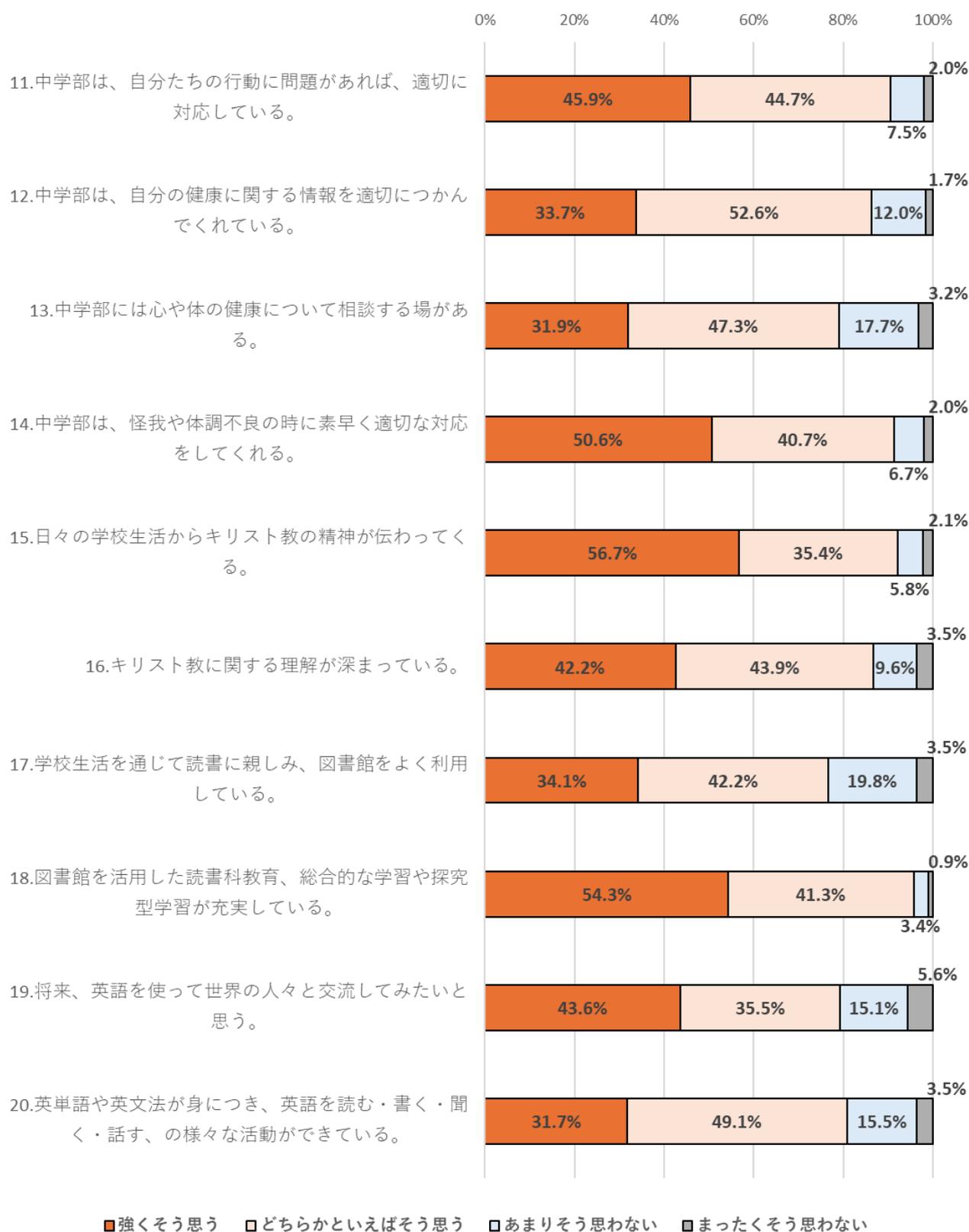
2024年度学校評価

2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 90.5% 回答656人/対象725人）

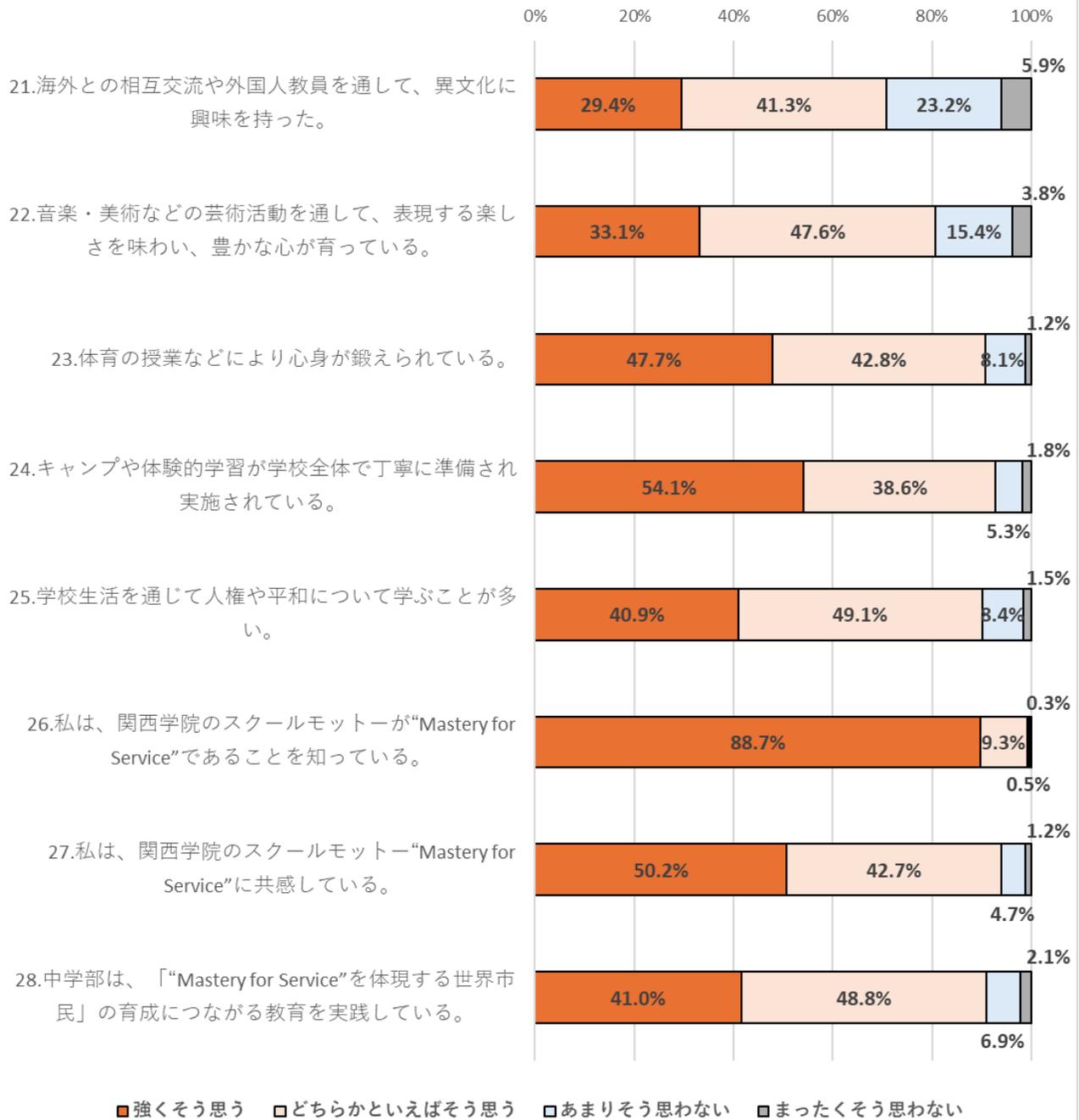


強く思う
 どちらかといえば思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

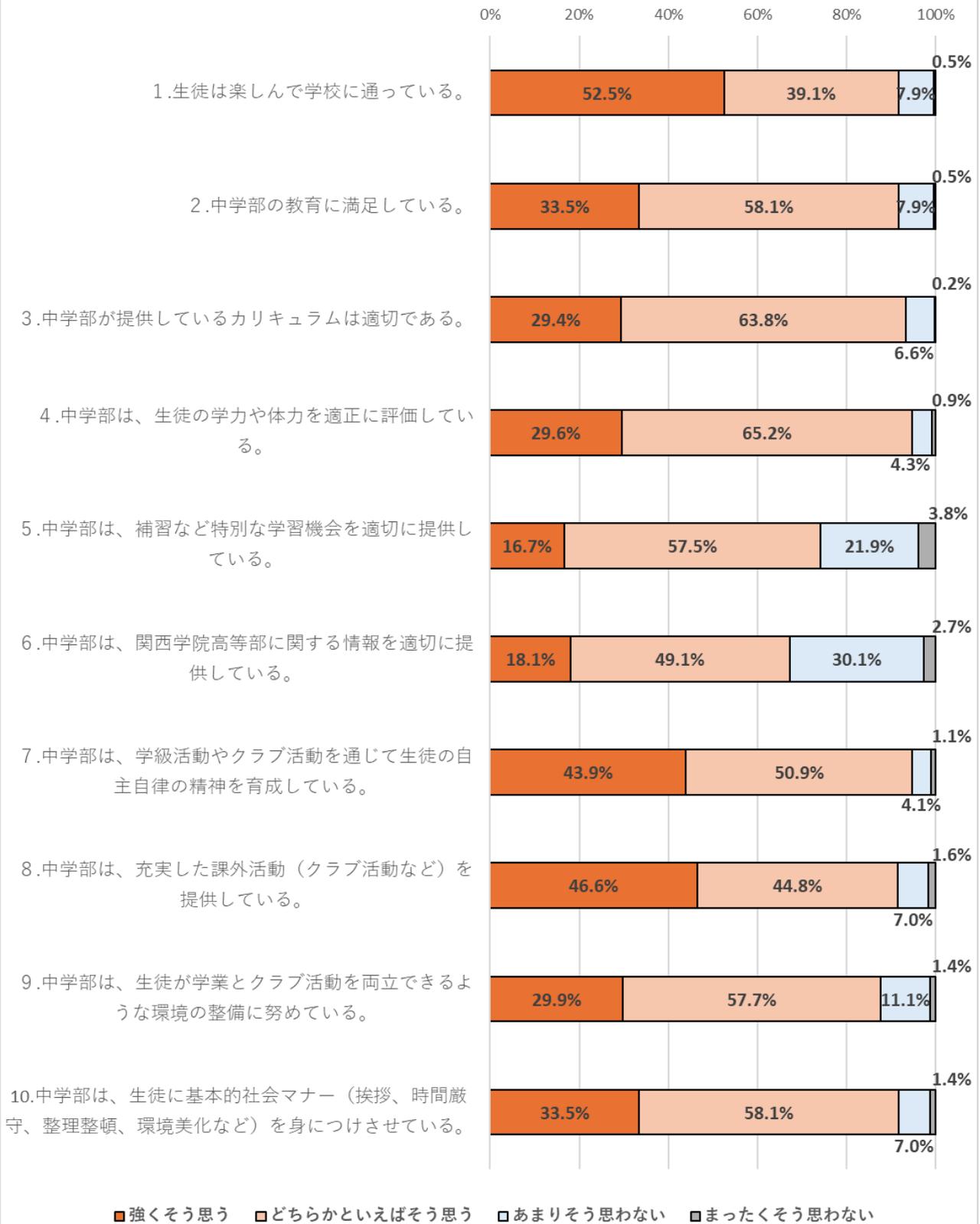
2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 90.5% 回答656人/対象725人）



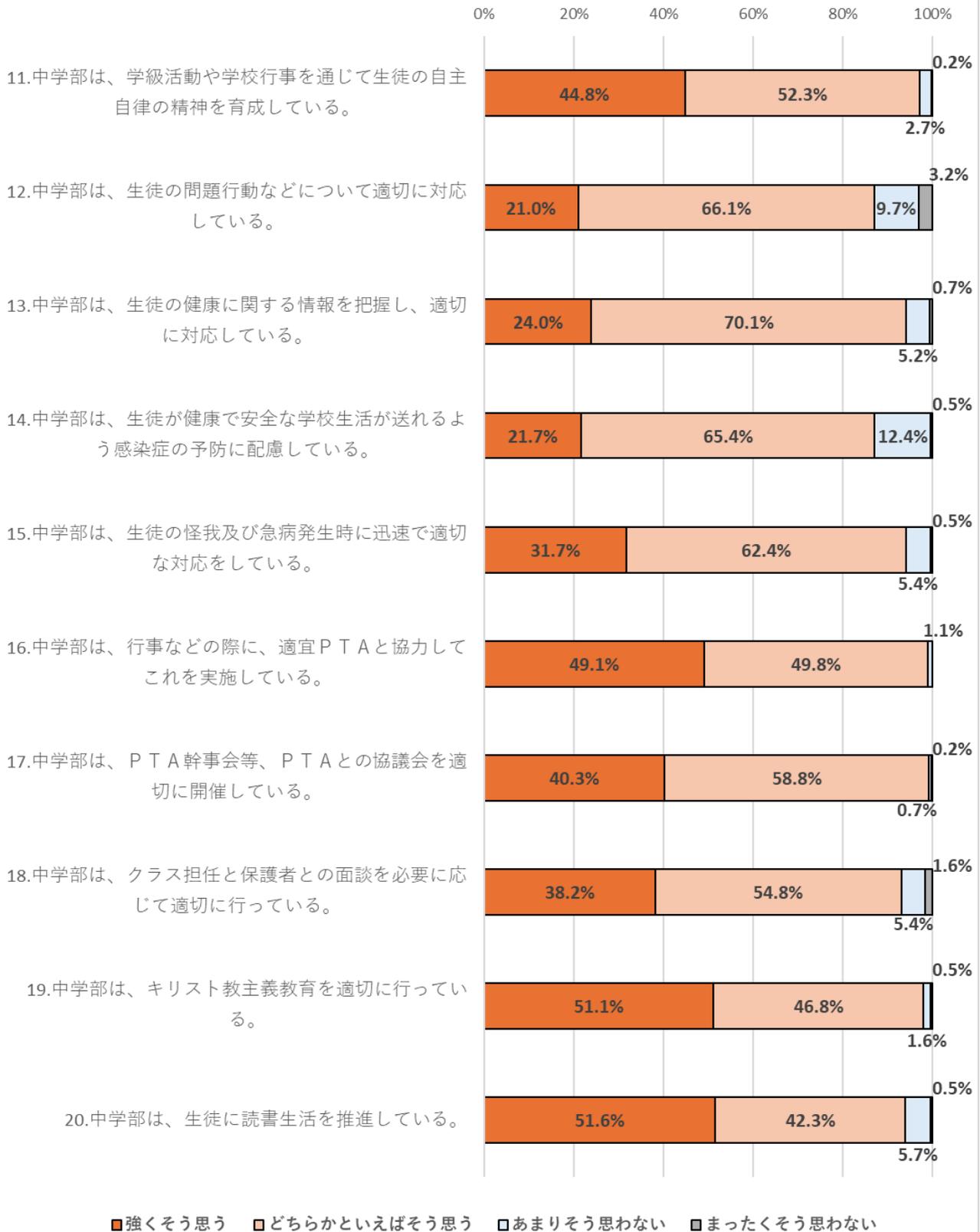
2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 90.5% 回答656人/対象725人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者（回答率 61.0% 回答442人/対象725人）

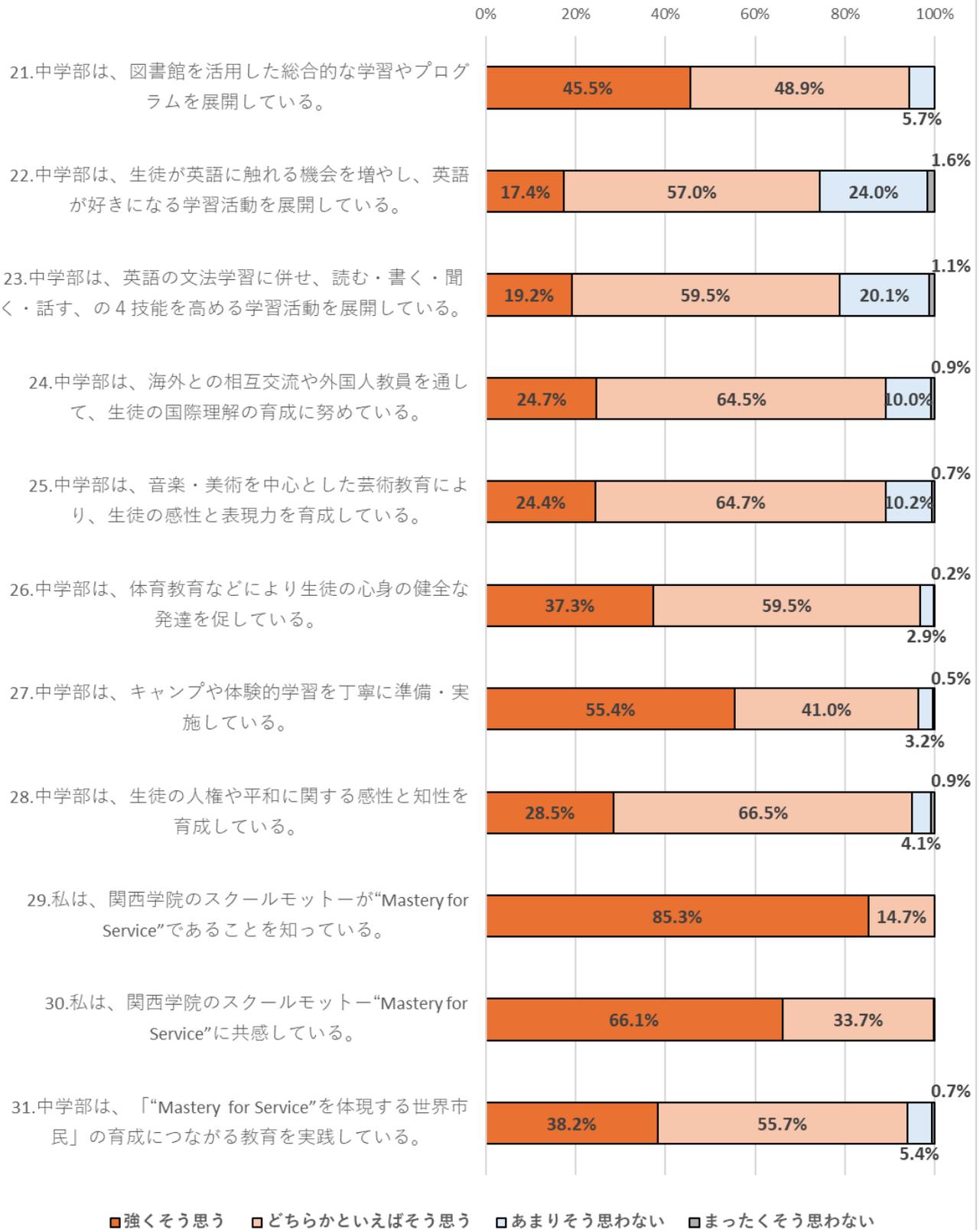


2024年度 学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者（回答率 61.0% 回答442人/対象725人）



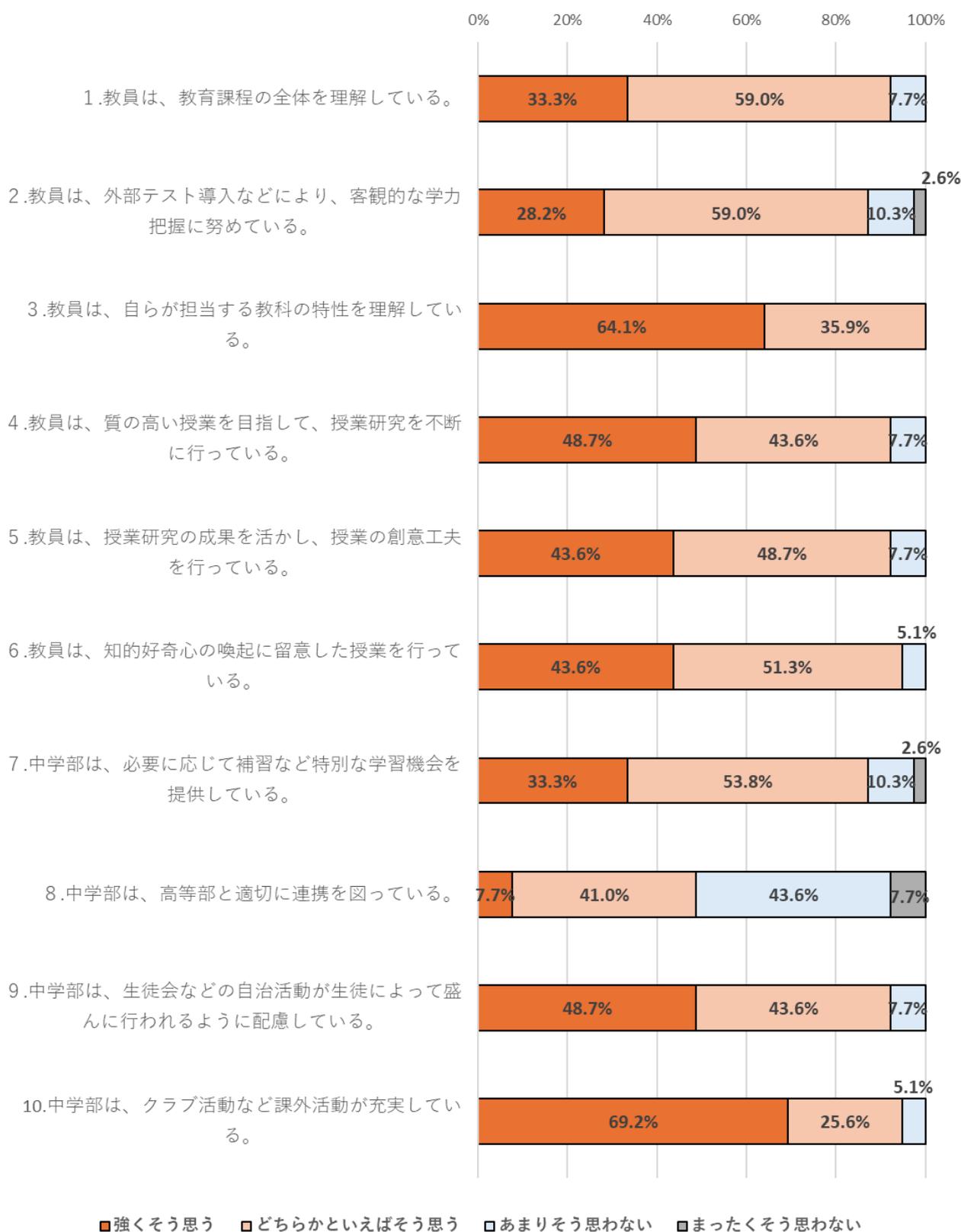
■ 強く思う
 ■ どちらかといえば思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ まったくそう思わない

2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者（回答率 61.0% 回答442人/対象725人）

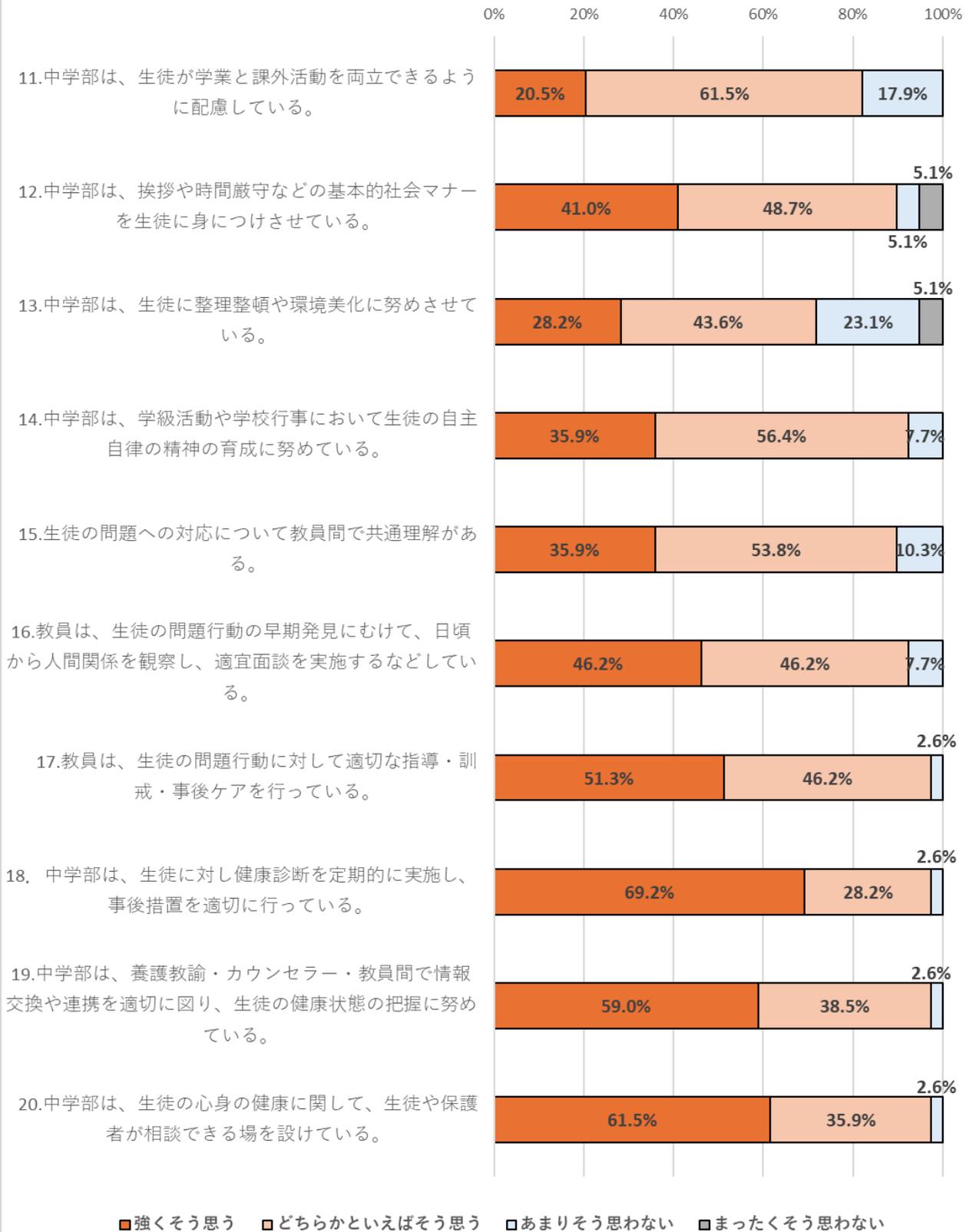


強く思う
 どちらかといえば思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答39人/対象39人）

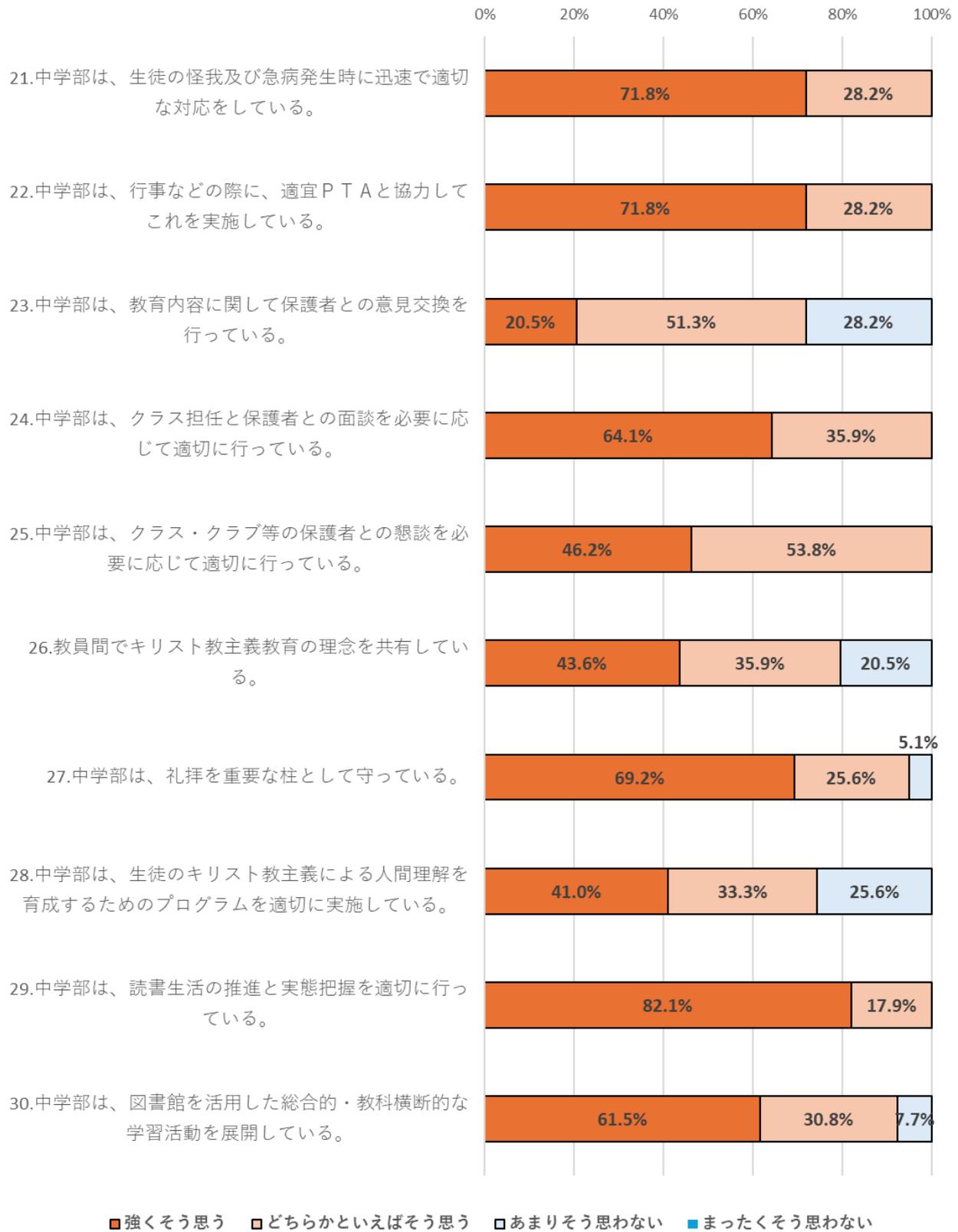


2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答39人/対象39人）



強く思う
 どちらかといえば思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答39人/対象39人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答39人/対象39人）

